

グローバル・リスクに適應する宇都宮都市圏のまちづくり提案

1. 趣旨

以下、内容は去年度のまま。今後、多少修正した上で、去年度とおおむね同じ内容で進める予定。

本演習の対象とする宇都宮都市圏は、これまで栃木県の中心都市圏として発展を続けてきた。都市圏の中心都市である宇都宮市は、2008年の第5次総合計画の中で、土地利用の適正化、拠点化の促進、ネットワーク化の促進を目指した「ネットワーク型コンパクトシティ（連携・集約型都市）」の方向性をいち早く示した。現在は、2018年の第6次総合計画、2019年の第3次都市計画マスタープラン・立地適正化計画の下、芳賀・宇都宮LRT（新交通システム）の整備、宇都宮駅東口の市街地再開発事業、釜川沿いの景観まちづくり、スマートシティ事業等を通じて市街地の再生を推進する一方、2018年の市街化調整区域の整備及び保全の方針の下、開発許可と地区計画を通じて市街化調整区域の集落の維持にも取り組んでいる。今後、市街地内の都市農地に保全に向け、地方都市としては先駆的に、生産緑地地区の指定も検討する。このように、宇都宮市は、日本の都市政策の「優等生」と言える。

しかし、昨今、都市を取り巻く状況は大きく変化している。世界経済フォーラムは、人間社会を取り巻く様々なリスクの発生可能性と影響の分布を「グローバル・リスク・ランドスケープ2021」として示しているが、これに登場するリスクには、気候変動施策の失敗、極端な気候、水不足、情報インフラの機能停止、自然災害、感染症、食糧危機、社会の不安定などが含まれている。実際、新型コロナウイルス感染症が世界的に流行して社会経済状況が大きく変化し、また、気候変動の影響は近年日本でも降雨パターンの変化、台風の凶暴化、夏の暑熱環境の悪化という形で現れている。また、日本独自の状況としては、人口や経済の縮小、人口の超高齢化、財政難などがある。こうしたリスクの特徴は、その要因や影響が都市・都市圏・国を超えて世界的に（グローバルに）つながっていることである。例えば、中国・武漢で発生して瞬く間に世界中に広がった新型コロナウイルスは、国際的な交流を大きく制限するとともに、東京都心を中心とする大都市圏の脆弱性を露呈し、逆に宇都宮のような国土軸上の安定した地方都市圏の可能性を示唆している。

本演習では、宇都宮都市圏を対象に、「ネットワーク型コンパクトシティ（連携・集約型都市）」を中心とするこれまでの都市政策の流れを基礎としながら、人間社会を取り巻く現在そして将来の様々なリスク（突発的なショックと進行性のストレス）に適應していくためのランドデザイン及びまちづくり提案を検討することとする。

2. 演習で行う検討作業

- (1) 宇都宮市及び周辺自治体の都市政策・まちづくりのレビュー、現状の理解
- (2) 都市圏を取り巻く様々なリスク（突発的なショックや進行性のストレス）とその影響の理解
- (3) 様々なリスクに適應していくための論点の整理と方針の検討
- (4) その方針に基づく、都市圏・自治体・中心市街地等の部分の物的・社会的環境形成・再生のあり方

(まちづくり提案) の検討

- ・土地利用、都市デザイン、住宅、防災、交通、緑地・環境の各分野について検討すること
- ・複数の自治体で構成させる都市圏の広域調整・広域連携のあり方についても検討すること

→以上の内容を 20 分のプレゼンテーションとしてまとめる。プレゼンテーションは、都市計画・まちづくり分野の専門家 (= 演習受講者) が自治体の首長や執行部に対して行うものと想定し、現行の都市政策・まちづくりをグローバル・リスクに適応するものへとアップデートする論理的な道筋を示すことを目標とする。

3. 基本的な進め方

- ・グループ作業とする。成績評価はグループとしての成果物と同一グループ内学生間の相互評価 (参加状況・貢献に関する 5 段階評価) に基づく。
- ・Zoom ミーティングを中心とするオンライン形式と現地見学・対面演習形式のハイブリッドとする。ただし、オンラインでの演習作業は、休憩を取りながら、3 時間/回以内とする。なお、新型コロナウイルス感染症の状況によっては現地見学・対面演習を中止することがあり得る。
- ・全体の情報伝達はメーリングリスト (mps_studio_regional-group@g.ecc.u-tokyo.ac.jp) を利用する。
- ・Zoom ミーティングは教員側で設定し、ブレイクアウト・ルームにてグループ毎の討議を行う。また、メイン・ルームでは教員の指導を受けることができるようにする。

4. スケジュール

12/10 課題説明、各論点に関わるミニレクチャーとディスカッション (オンライン形式)

- ・論点 1 : COVID-19 などの新型感染症にどう対応するか?
- ・論点 2 : 気候変動 (風水害・暑熱)、地震などの自然災害リスクにどう対応するか?
- ・論点 3 : 人口減少・超高齢化などの人口動態の変化にどう対応するか?

宇都宮市バーチャル・ツアー、翌週の現地見学の準備

12/17 現地見学 (3つの班に分かれた徒歩見学と全体意見交換会)

12/24 グループ作業 (対面形式)

1/ 7 グループ作業 (対面形式)

1/14 中間発表会 (オンライン形式) (※大学入学共通テストのため、教室利用不可)

1/21 グループ作業 (対面形式)

2/ 4 最終発表会 (オンラインまたはハイブリッド形式)

(1/14 は大学入学共通テストのため教員による指導は未定。)

5. 担当教員・TA 連絡先

横張 真 教授	myoko@k.u-tokyo.ac.jp
村山 颯人 准教授	murayama@up.t.u-tokyo.ac.jp
瀬田 史彦 准教授	seta@urban.t.u-tokyo.ac.jp
福山 遼平 TA	fukuyama-ryohei717@g.ecc.u-tokyo.ac.jp